

<事務局便り>

平成 30 年炉物理部会運営委員

氏名	役職	所属
山本 章夫	部会長 (任期2年)	名古屋大学
辻本 和文	副部会長(任期1年)	原子力機構
左藤 大介	庶務幹事(任期1年)	三菱重工
北田 孝典	部会等運営委員会担当運営委員	大阪大学
高木 直行	編集委員会担当運営委員	東京都市大学
多田 健一	HP担当幹事	原子力機構
方野 量太	HP担当幹事	原子力機構
奥村 啓介	HP担当幹事	原子力機構
田淵 将人	財務小委員会担当幹事(任期1年)	原子力エンジニアリング
左近 敦士	財務小委員会担当幹事(任期2年)	近畿大学
木村 礼	編集小委員会担当幹事(任期1年)	東芝
辻田 浩介	編集小委員会担当幹事(任期2年)	原子力エンジニアリング
千葉 豪	セミナー小委員会担当幹事(任期1年)	北海道大学
名内 泰志	セミナー小委員会担当幹事(任期2年)	電力中央研究所
佐藤 駿介	セミナー小委員会担当幹事(任期2年)	電力中央研究所
小野 道隆	学術交流小委員会担当幹事(任期1年)	GNF-J
大泉 昭人	学術交流小委員会担当幹事(任期2年)	原子力機構
下 哲浩	学術交流小委員会担当幹事(RPHA担当)	京都大学原子炉実験所
竹本 友樹	学生・若手小委員会担当幹事(任期1年)	三菱重工学
竹田 敏	学生・若手小委員会担当幹事(任期2年)	大阪大学

(各役職の担当内容については、運営小委員会内規をご覧ください。)

編集小委員会からの御願い

部会報に対するご意見・ご要望などがございましたら、編集小委員会までお知らせ下さい。また、部会報の原稿として、「部会員の声（自由投稿欄）：内容不問で自由に投稿・意見を述べられる場」を常時募集しています。また、部会ニュース（ホームページに掲載）の原稿もございましたらお知らせください。

連絡先：編集小委員会（会報担当）

木村 礼 rei.kimura[at]toshiba.co.jp

辻田 浩介 ktsujita[at]neltd.co.jp

[at]はアットマークと読み替えてください。

炉物理部会員の名簿は、日本原子力学会の名簿に基づいて作成しております。学会名簿は、部会報の郵送、部会メーリングリストの発信先 E メールアドレスなどに使用されます。勤務先、メールアドレス等に変更がある場合には、速やかに日本原子力学会に登録情報の変更手続きをして頂くようお願いいたします。

日本原子力学会炉物理部会第 49 回全体会議 議事録

日時：2018年9月5日(水) 12:00-13:00

場所：日本原子力学会 2018 年秋の大会 M 会場 (岡山大学津島キャンパス E 棟 E11 室)

【部会賞表彰式】

1. 平成 30 年度炉物理部会賞授与式

平成 30 年度炉物理部会賞の表彰が行われた。件名及び受賞者は下記の通り。

(1) 貢献賞

件名：新規制基準対応再稼動による炉物理実験研究及び教育への多大な貢献

受賞者：京都大学 複合原子力科学研究所 臨界装置部

(2) 奨励賞

件名：加速器駆動システムにおけるパルス中性子源を用いた実効遅発中性子割合の測定

受賞者：山中 正朗 (京都大学 複合原子力科学研究所)

件名：Reduced Order Modeling(ROM)に基づいた効率的な感度係数評価手法の開発

受賞者：方野 量太 (日本原子力研究開発機構)

【審議事項】

2. 平成 30 年度予算及び執行状況について (資料 49-01)

財務小委員会担当幹事より資料 49-01 に基づき、平成 30 年度の予算及び 8/24 時点迄の実績について報告がなされた。旅費交通費に関し、昨年度繰越金申請が間に合わず、今年度の予算外申請として処理する旨の説明があった。加えて、PHYSOR2018 への参加学生に対する旅費補助、部会賞副賞の表彰盾代金の実績が報告され、了承された。

3. 平成 31 年度予算 (案) について (資料 49-02)

財務小委員会担当幹事より資料 49-02 に基づき、平成 31 年度の予算案について報告がなされた。主な支出が、旅費交通費 32 万円 (対象者及び対象会議は今後検討予定) 及び部会賞副賞の代金 3 万円であるとの説明があり、了承された。

4. 平成 31 年春の年会での企画セッションについて (資料 49-03)

学術交流小委員会担当幹事より資料 49-03 に基づき、企画セッションのテーマ案につ

いて説明があった。追加のテーマ案については、メールにて運営委員会に伝えることとし、テーマ選定は運営委員会に一任する方針が説明され、了承された。

5. RPHA2019 の開催について (資料 49-04)

学術交流小委員会担当幹事(RPHA 担当)より資料 49-04 に基づき、RPHA2019 を 2019 年 12 月に炉物理部会主催で開催する旨の提案がなされ、了承された。併せて、準備委員会の構成メンバー案の説明があり、了承された。但し、RPHA に対する炉物理部会としての今後の係り方については、継続して議論する必要があるとの問題提起がなされた。

【報告事項】

6. 第 50 回炉物理夏期セミナー・若手研究会 開催報告 (資料 49-05)

セミナー小委員会担当幹事より資料 49-05 に基づき、第 50 回炉物理夏期セミナーについて開催報告がなされた。夏期セミナーの収支については、参加人数によっては厳しい状況も想定されるため、参加費の設定について今後検討する必要がある旨、併せて報告があった。

【その他】

7. 日本原子力学会誌 60 周年記念号(2019 年 4 月号)企画記事執筆について(資料 49-06)

部会長より資料 49-06 に基づき、原子力学会より依頼のあった企画記事執筆について説明があった。執筆者としては、名古屋大学山本教授、北大千葉准教授の推薦があり、了承された。記事の内容としては、執筆者に一任する方針となったが、部会員より「総花的な内容とせず、テーマを絞った上でメッセージ性があるものとして欲しい。」「読者が読みたくなるような内容にして欲しい。」との意見が出された。

8. 炉物理教科書の作成について (資料 49-07)

部会長より資料 49-07 に基づき、部会にて炉物理に関する教科書を作成する計画について説明があった。教科書としては、数式を使用しない読み物としての第 1 部と従来の炉物理の教科書に近い第 2 部の 2 部構成として作成する方針が提案され、了承された。

教科書の内容に対する意見として、部会員より「読者のレベルをどこに設定するのかをはっきりさせる必要がある。」「炉主任の試験問題をターゲットとするのは少し難易度が高過ぎる(ので、技術士のみを対象とするのがよい。」「読み物として作成するのは良いが、分厚すぎると敬遠される可能性あるため、工夫が必要。」「手軽に手に取ってもらえる内容にする必要がある。」「著作権は明確にしたほうが良い」との意見が出された。なお、追加の意見等については、メールにて部会長に連絡することとした。

今後の進め方として、別途立ち上げ予定の人材基盤 WG の下にサブ WG を設置し、第 1 部を対象に検討を開始すること、執筆者はボランティアを募ることとし、メーリングリストで協力をお願いする方針が提案され、了承された。

9. 人材基盤 WG 及び関連するサブワーキングの設置 (資料 49-08)

部会長より資料 49-08 に基づき、2017 年度炉物理ロードマップ報告書の提言に従い、人材基盤 WG の設置について提案がなされた。提案では、炉物理部会運営委員会の下に、人材基盤 WG を設置し、テーマに応じてサブ WG を設置して活動を推進する方針が説明され、了承された。WG のメンバーの選定は、運営委員会にて行い、活動の進捗に応じて全体会議で報告することとした。なお、全体会議の直後に実施された研究炉に関する企画セッションにおいて、研究炉に関する議論を継続する必要があるとの認識があり、サブ WG のテーマに加えることを検討する。

10. 第 51 回炉物理夏期セミナー開催に係るアンケート (資料 49-09)

セミナー小委員会担当幹事より資料 49-09 に基づき、第 51 回炉物理夏期セミナー開催に係るアンケートの依頼があった。会場にて配布したアンケート用紙に対して、大会期間中の回答を希望する旨の説明があった。

11. 第 7 回炉物理専門委員会の案内 (資料 49-10)

京大複合研・卞氏から資料 49-10 に基づき、第 7 回「炉物理専門研究会」(2018 年 11/26-27@京大複合原子力科学研究所) の開催案内について紹介があった。

【配布資料】

資料 49-01 : 平成 30 年度 炉物理部会予算及び実績

資料 49-02 : 平成 31 年度 炉物理部会予算案

資料 49-03 : 平成 31 年春の年会での企画セッションについて

資料 49-04 : 第 3 回「日中韓炉物理会議 (RPHA19)」の準備委員会 (案)

資料 49-05 : 第 50 回炉物理夏期セミナー・若手研究会 開催報告

資料 49-06 : 原子力学会誌「アトモス」への寄稿のお願い

資料 49-07 : 炉物理部会で作成する炉物理の教科書の作成について(案)

資料 49-08 : 人材基盤 WG 及び作業部会の設置について(案)

資料 49-09 : 第 51 回夏期セミナーのためのアンケート

資料 49-10 : 第 7 回「炉物理専門研究会」のご案内

以 上

編集後記

炉物理部会報の発行に際し、ご多忙の中原稿執筆依頼をご快諾頂いた皆様に深く御礼申し上げます。

2018年は、私にとって非常に良い刺激を受けた年となりました。炉物理の一つの重要な目的は原子炉を設計する事ですが、近年、日本では新型炉建設の機運は下火になっています。一方、国際会議に参加してみると海外では様々なSMRに関する発表があり、そのうち幾つかは既に許認可取得に向けて歩を進めているという状況でした。海外で着々と原子力のイノベーションが起こりつつある昨今、日本が世界に誇れる原子炉コンセプト確立に貢献することが炉物理部会の存在意義の一つなのではと思う次第です。

また、このようなイノベーションを推進するには山本部会長が巻頭言述べられた9プリンシプルズが示唆する様に積極的に自らを変化させていく事が重要な点であると感じました。将来、このイノベーションを担うのは若い学生さん達になるかと思えます。特に学生さん達には今回 PHYSOR や PHYTRA に参加された学生さんの様に、国内のみならず世界で何が行われているのか、どのような文化的・社会的背景があるのかなど積極的に吸収・咀嚼して学会などの機会に皆さんにフィードバックして貰えればと思います。

今回、特集記事として主に若手に向けてレジェンドに炉物理を語っていただきました。記事の中では様々な課題が出てきたこと、それにどのように向かっていったかが述べられており炉物理としても、問題解決への取り組み方としても非常に興味深い内容となっていますのでご一読いただけると幸いです。

学生・若手担当幹事、編集小委員会担当幹事と4年間、運営委員として歴史ある炉物理部会の運営に携わるという良い経験が出来たことや皆様のご指導ご鞭撻にこの場を借りて御礼申し上げます。今後も炉物理・原子力分野の発展に微力ながら貢献できるように精進したく思います。

編集小委員会担当幹事
東芝 ESS 木村礼